



2021年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年6月14日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 松浦 清
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0兼コーポレート本部長 (氏名) 戸谷 隆宏 TEL 03-3502-2020
 四半期報告書提出予定日 2021年6月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年7月期第3四半期の連結業績（2020年8月1日～2021年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第3四半期	23,766	—	4,428	—	4,416	—	2,827	—
2020年7月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年7月期第3四半期 2,827百万円 (—%) 2020年7月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年7月期第3四半期	333.15	332.65
2020年7月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 2021年7月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年7月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2021年7月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
2. 2020年7月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。
3. 2021年7月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社は2020年10月28日に東京証券取引所マザーズに上場したため、新規上場日から2021年7月期第3四半期連結会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
4. 2020年8月29日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。そのため、2021年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2021年7月期第3四半期	12,386	6,943	6,943	—	56.1
2020年7月期	—	—	—	—	—

(参考) 自己資本 2021年7月期第3四半期 6,943百万円 2020年7月期 一百万円

(注) 2021年7月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年7月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年7月期	—	0.00	—	—	—
2021年7月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年7月期の連結業績予想（2020年8月1日～2021年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,500	—	4,400	—	4,380	—	2,710	—	317.09

(注) 1. 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2021年7月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2021年7月期通期の対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名）一、除外 一社 （社名）一

(注)特定子会社の異動には該当いたしません。2021年2月22日付で設立したベイ安美（上海）化粧品有限公司※を当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

※ベイ安美のベイは草かんむりに倍

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年7月期3Q	8,720,000株	2020年7月期	8,000,000株
② 期末自己株式数	2021年7月期3Q	36株	2020年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年7月期3Q	8,488,045株	2020年7月期3Q	一株

(注) 1. 2020年8月29日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。そのため、2021年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

2. 当社は、2020年7月期第3四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2020年7月期第3四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、2021年4月に首都圏等都市部を中心に3度目の緊急事態宣言が発令されるも、対象地域の追加は今もなお続いており、更なる期間延長が必要とされる等経済活動の停滞や個人消費の悪化など厳しい状況が続いております。新規感染者数は増減を繰り返し医療提供体制が逼迫する中、新型コロナウイルスワクチンの接種拡大による経済回復が期待されるものの、依然として先行き不透明な状況が続くと予想されます。

このような状況の下、当社グループは主力製品の「ザ クレンジングバーム」シリーズを中心に化粧品の製造・販売を推し進めて参りました。

「DUO」ブランドにおいては、2020年に限定品として好評を博した「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」を定番商品として2021年3月より販売開始し、当初の売上見込みを超えるペースでの初動となりました。なお、「ザ クレンジングバーム」シリーズは2021年4月末に累計出荷個数2,500万個※1を突破し、堅調に推移しております。

「DUO」ブランドに続く第2の収益の柱として2019年4月より販売を開始している「CANADEL」ブランドにおいては、TVCMの効果により、引き続き配荷店舗数が増加し、売上高は増加しております。また、従来商品より高価格帯の高機能エイジングケアオールインワン化粧品「プレミア ゼロ」、限定商品の引締め保湿オールインワン化粧品「プレミア モイストクール」、同じく限定商品の家庭用美顔器「カナデル ビューティートレーナー」の販売を開始し、「CANADEL」ブランドのアイテムの拡充を図っております。

海外事業（中国）においては、事業拡大及び中長期的な高収益体制の構築を目的として、2021年2月に中国の現地法人「ベイ安美(上海)化粧品有限公司※2」を設立しました。加えて、2021年3月には短尺動画プラットフォーム「抖音(Douyin: どういん)」越境EC旗艦店へ日本法人・日本ブランドで初となる出店を、2021年4月には中国大手テクノロジー企業のテンセントとの戦略的業務提携を実現いたしました。第4四半期から活動を予定している中国本土向けのプロモーションの本格化に向け、引き続きの基盤作りを推進して参ります。

上記活動の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は23,766,104千円、営業利益は4,428,068千円、経常利益は4,416,380千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,827,751千円となりました。

なお、当社グループは化粧品の製造・販売の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

※1 ミニサイズ、限定品を含む

※2 ベイ安美のベイは草かんむりに倍

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次の通りであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、12,386,008千円となりました。

流動資産は、11,999,201千円となりました。主な内訳は、現金及び預金が5,917,206千円、売掛金が2,916,041千円、製品が2,513,370千円です。

固定資産は、386,806千円となりました。主な内訳は、有形固定資産が116,135千円、無形固定資産が123,956千円、投資その他の資産が146,713千円です。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、5,442,540千円となりました。

流動負債は、4,783,972千円となりました。主な内訳は、未払金が1,728,536千円、未払法人税等が1,396,476千円、買掛金が737,109千円です。

固定負債は、658,568千円となりました。主な内訳は、長期借入金が628,054千円です。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、6,943,467千円となりました。

主な内訳は、資本金が1,348,130千円、資本剰余金が1,348,130千円、利益剰余金が4,247,634千円です。

その結果、自己資本比率は56.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年3月15日付「2021年7月期第2四半期業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2021年4月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	5,917,206
売掛金	2,916,041
製品	2,513,370
原材料及び貯蔵品	345,722
その他	306,861
流動資産合計	11,999,201
固定資産	
有形固定資産	116,135
無形固定資産	123,956
投資その他の資産	146,713
固定資産合計	386,806
資産合計	12,386,008
負債の部	
流動負債	
買掛金	737,109
1年内返済予定の長期借入金	376,306
未払金	1,728,536
未払法人税等	1,396,476
賞与引当金	27,013
ポイント引当金	27,021
返品調整引当金	7,485
その他	484,023
流動負債合計	4,783,972
固定負債	
長期借入金	628,054
資産除去債務	30,514
固定負債合計	658,568
負債合計	5,442,540
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,348,130
資本剰余金	1,348,130
利益剰余金	4,247,634
自己株式	△282
株主資本合計	6,943,612
その他の包括利益累計額	
為替換算調整勘定	△144
その他の包括利益累計額合計	△144
純資産合計	6,943,467
負債純資産合計	12,386,008

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
売上高	23,766,104
売上原価	4,527,032
売上総利益	19,239,071
返品調整引当金戻入額	5,935
返品調整引当金繰入額	7,485
差引売上総利益	19,237,521
販売費及び一般管理費	14,809,452
営業利益	4,428,068
営業外収益	
受取利息	29
保険解約返戻金	20,045
雑収入	5,205
営業外収益合計	25,280
営業外費用	
支払利息	11,598
上場関連費用	22,051
雑損失	3,319
営業外費用合計	36,969
経常利益	4,416,380
税金等調整前四半期純利益	4,416,380
法人税等	1,588,629
四半期純利益	2,827,751
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,827,751

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
四半期純利益	2,827,751
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	△144
その他の包括利益合計	△144
四半期包括利益	2,827,606
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,827,606
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年10月28日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。株式上場にあたり、2020年10月27日を払込期日とする公募増資による新株式700,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,333,080千円増加しております。

また、第2四半期連結会計期間において、第1回新株予約権の権利行使による新株式20,000株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ50千円増加しております。

この結果、第3四半期連結会計期間末において資本金1,348,130千円、資本剰余金1,348,130千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 2社

プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社

バイ安美（上海）化粧品有限公司※

※ バイ安美のバイは草かんむりに倍

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちバイ安美（上海）化粧品有限公司の決算日は12月31日となっております。四半期連結財務諸表の作成にあたっては、当該連結子会社の四半期決算日現在で実施した仮決算に基づく四半期財務諸表を使用しております。

その他の連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品、原材料、貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物及び建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～15年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 4～8年

②無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（1年～5年）による定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

①返品調整引当金

製品の返品による損失に備えるため、過去の返品実績を勘案した見込額を計上しております。

②ポイント引当金

顧客の購入実績に応じて付与するポイント制度に基づき、将来のポイント使用による費用の発生に備えるため、過去の実績を基礎にして当四半期連結会計期間末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

③賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当四半期連結累計期間に属する支給対象期間に見合う金額を「賞与引当金」として計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債並びに収益及び費用は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(6) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症に関し、3度目の緊急事態宣言が発令されたことにより、依然として先行きが不透明な状態が続いておりますが、当連結会計年度末以降は徐々に回復するものと想定しております。現時点においてはコロナ禍における顧客のEC志向の高まりが後押しとなり、当社グループの主要チャネルである通信販売は堅調に推移していることから、当該影響により予想されるたな卸資産の評価や製品の返品及びポイント使用の増大に備えた返品調整引当金、ポイント引当金の算定及び繰延税金資産の回収可能性の判断等、会計上の見積りについて新型コロナウイルス感染症の影響は限定的と仮定しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期や影響範囲等は大きく変動する可能性があり、将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは化粧品の製造・販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。